

令和7年度 四條畷南小学校 学校経営計画

四條畷市立四條畷南小学校

校長 芝 田 孝 人

1 学校経営方針

四條畷市教育振興基本計画(令和4年1月)には、本市の教育の長期的かつ普遍的な将来像(夢)として、基本理念「みんなの学びが叶うまち～生涯学び夢挑戦～」が掲げられている。

その基本理念の実現に向けて、令和7年3月に『まなびのプラン(学力向上計画)』の第2期改訂が実施された。その中には、各教科における「問題発見、問題解決」に至る過程を重視し、主体的に学習に取り組む態度の涵養をめざすことや学習を振り返り「前の学び」「後の学び」を生かしたつながりのある学習活動を実施することで、自己調整力や自己認識力(メタ認知)の育成をめざす必要がある事が述べられている。

また、小学校学習指導要領では、新しい時代に必要となる育成すべき資質・能力を「学びに向かう力・人間性等の涵養」「生きて働く知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力等の育成」としている。予測が困難なこれからの時代を生きる子どもたちには、子どもたち自らが、自分の人生を切り拓き、生き抜いていく力を培っていくことが求められている。

このような状況を踏まえて、本校では、子どもたちに、自分の将来に夢を持ち、しなやかにたくましく生きる力を育成していきたいと考え、今年度の学校教育目標を以下のように設定した。

【学校教育目標】

「夢に向かって自ら学び、たくましく生きる子ども」

～ 協働 つながり 安心安全 家庭・地域との連携 ～

今年度は、上記「学校教育目標」の実現に向け、下記の観点を学校経営の中心的な方針としたい。

○この時代を生き抜く子どもたちが、必要な資質・能力を身につけるには、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が必要不可欠である。これまで本校で取り組んできた国語科を中心とした校内研修による成果を、授業改善加配教員(JK)を中心に、更に深めるとともに他教科へも広げていく。

○いじめや虐待、児童間のトラブルや問題行動を未然に防ぐ方策として、行事や授業など全ての学校教育活動において「つながり」を大切にした取組みを全教職員で意識し、発達支持的生徒指導の視点を大切にして子どもたちに関わっていく。また、子どもたちの主体的な活動をリードする児童会・委員会活動を通して、その趣旨を深めていく。

○各教科や教育活動等との関連を踏まえ、専門家による出前授業や地域の人材・施設などの資源を積極的に活用する。体験的な学習を通じて子どもたちの望ましい教育活動を確保し、個々の視野を広げると共に心や体の成長を促す。また、様々な経験をすることで、達成感や充実感を味わい、仲間とともに協力して取り組むことの素晴らしさなどを伝えていく。

○安心安全な学びの場づくりを全教職員で意識し、自然災害や不審者、アレルギーなどへの対応が迅速かつ適

(様式1)

切に行えるよう、担当教員を中心にチームとして取り組む。また、日々の清掃活動や給食指導等にも注意を払い、子どもたちが自分たちの力で、自分たちの活動の場の環境を整えることの大切さを伝えていく。

○GIGAスクール構想に基づく、ICT機器の活用により、多くの情報から必要な情報を収集し活用する情報活用能力の育成や、個別最適な学びや協働的な学びの充実など、子どもたちが未来社会を生きるために必要な資質・能力の向上を図る。

○教育活動全体を通じて人権教育や道徳教育の視点を大切にし、学校全体で個を大切にし多様な考えを認め合える豊かな心の育成に努める。また、異年齢交流などを積極的に行い、子どもたちの自己肯定感や自己有用感の醸成、仲間と協力し活動する経験を通じ、つながりづくりを意識した指導に努める。

○合理的配慮や基礎的環境整備の視点から、個に応じた支援が受けられるよう、授業におけるユニバーサルデザインの考え方を推進し、全ての子どもが学びやすい授業づくり(全員参加)に努める。

○子どもたちにとって、第一の教育環境である教員が、授業準備や子どもと向き合う時間を確保することができるよう、カリキュラムや日々の教育活動を見直し、校内の多様な人材が専門性を活かして能力を発揮できるよう教員の働き方改革の推進に努める。

○子どもを中心に据えた家庭・地域・学校の連携を密にし、適切な資源を活用しながら、子どもたちの健やかな成長を保護者や地域とともに見守っていく。また、コミュニティ・スクール(学校運営協議会)の活動の中、家庭・地域・学校が目標や課題を共有し、地域の物的、質的支援を活用して、地域と連携した教育活動の展開をめざす。

2 めざす学校像、子ども像、教師像(中期目標)

★めざす学校像	・子どもたちが生き生きと笑顔で活動する安心安全な学校
★めざす子ども像	・しっかりと考え、主体的に活動できる子 ・相手の気持ちに寄り添い、行動することができる子 ・粘り強く取り組み、やり切ることができる子
★めざす教師像	・子どもの実態を的確に把握し、適切な指導ができる教師 ・主体的に課題を捉え、広い視野を持って解決できる教師 ・人間愛にあふれ、明るく前向きに仲間とともに学び続ける教師

(様式1)

3 学校の現状（よさと課題）

(1) 子どもたちの実態

本校児童は明るく素直で、友だちにも親切にやさしく接することができる児童が多い。知的好奇心も旺盛であり、楽しそうなことや新しい事に対して意欲的に取り組むことができる。子どもたちの根底にある自己肯定感・自己有用感の高さが上記の内容を下支えしていると感じている。

しかし一方で、自分の考えや気持ちを丁寧に相手に伝える力や、自分の未来をイメージしながら夢に向かって努力する力、やってみようと挑戦することができる力の育成が課題である。

(2) 子どもたちを取り巻く環境

①教育環境

本校児童の家庭環境について、保護者は我が子に対する愛情や関心を持って子育てをおこなっている家庭が多い。家庭での教育環境については、子育てについての考え方が多様であることや、保護者の多忙さなどから校区内でも一様ではない（習い事に通う児童の数、家庭学習に保護者が関わる時間など）。

②地域

伝統的な地域のつながりを保ち、地域のおとなたちで子どもたちを見守り育てようとの意識をもっておられる地域の方は多い。学校安全協議会や民生委員、地域コーディネーターをはじめとして、子どもの安全確保やすこやかな育成のために熱心に力を貸してくださる方も多い。

③組織（教職員、PTA、保護者）

教職員は学校全体の課題や個々の児童の課題を共有しようとする意識を持っており、新しい取り組みへの共通理解も早い。児童への関わりを丁寧におこない、児童や保護者との信頼関係を構築していく力を持っている。また教職員どうしのサポートや協力についても相手意識を持ち行動している教職員が多い。

保護者の学校への期待や関心は高く、学級・学校の取り組みへの理解も得られやすい。保護者と学校がどのように子どもを中心にすえて協働していけるのか、取り組み方について検討を重ねていく必要がある。

4 今年度の達成目標、具体的な方策

目標設定区分1 『学校の経営』

A 今年度の成果目標		達成基準（各種調査、アンケート等）
学校をあげて学力向上に取組み、児童の主体的・対話的で深い学びの実現をめざす。		学校教育自己診断アンケート等、全国学力学習状況調査 児童・教職員アンケート等、NRT、すくすくウォッチ等
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
【学びのプラン】確かな学びを育む学校づくり (教職員アンケート) 四條畷市の課題を理解し、それに正対した取り組みの充実に向けて学校全体で取り組んでいる。	強肯定評価 80%	これからの変化の激しい時代を生き抜く子どもたちが、必要な資質・能力を身につけるには、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が必要不可欠である。全市的な課題を踏まえて、これまで本校で取り組んできた国語科を中心とした校内研修による成果を、学習指導部を中心に、更に深めていく。

(様式1)

【学びのプラン】2期重点 (職員アンケート) すべての児童生徒が学習 に参加し、理解できるよう、 学習中の手立てや支援を 行いましたか。	強肯定評価 55%	「四條畷市授業スタンダード」を踏まえて、校内研修の充実 を図り、何を学習したのか、わかったことは何なのかを認知 し、次の学習への調整力を高めていく。具体的には学習指導 部を中心に「リフレクションシート」を活用し、児童のメタ認知 力向上を図り、基礎基本の学力の定着と、自己調整力を向 上させていく。
---	-----------	---

目標設定区分2 『学校組織の運営』

A 今年度の成果目標		達成基準 (各種調査、アンケート等)
ミドルリーダーを中心とした学校組織力の向上		学校教育自己診断アンケート等、全国学力学習状況調査 児童・教職員アンケート等、NRT、すくすくウォッチ等
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
【指導工夫加配】 (児童アンケート) 授業では学習課題の解 決や目標の達成に向け て、自ら進んで考え、取り 組んでいる。	肯定的評価 85%	本校の研究テーマにそって、児童が意欲や相手を意識して 「知識技能を生きて働かせる」教育活動について深めるような 国語科の授業研究を進める。 また、授業改善加配教員(JK)を中心に校内の授業改善に 組織的に取り組み、校内研修の成果を踏まえ、他教科にも広 げていく。
【学びのプラン】ICT利活 用計画(児童アンケート) ICT機器を活用すること で、進んで学習するよう になりましたか。	肯定的評価 75%	一人一台の児童用タブレットを有効に学習活動に活かせるよ うに、校内でも情報共有や研修を行う。市の SAMR モデルを 指針として授業でいかに児童が機器を活用してアウトプットで きるかを研究実践していく。 タブレット PC の安全な使い方について児童・教職員とも学び 安心して使用するための方法を子どもたちに理解させていく。

目標設定区分3 『人の管理・育成』

A 今年度の成果目標		達成基準 (各種調査、アンケート等)
児童の自己肯定感・自己有用感を向上させ、 自分を高めようとする意欲を育てるために、教 職員の資質向上を図る。		学校教育自己診断アンケート等、全国学力学習状況調査 児童・教職員アンケート等、NRT、すくすくウォッチ等
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
【学校教育自己診断】 (保護者アンケート) 学校には、子どもが安心 して過ごせる雰囲気があ りますか。	肯定的評価 95%	発達支持的生徒指導の視点を全教職員で共有し、日々の教 育活動に活かしながら、学校が児童にとって安心安全な学び の場所となるよう学校全体で集団づくりに取り組んでいく。 児童が自信をもって自分の思いを表現し、何事にも積極的に 挑戦する意欲を育て、互いの違いを理解し、助け合う心を育て ていく。

(様式1)

不登校への対応	不登校ゼロ	校内・家庭での表出する児童の問題行動に対し、校内組織体制で解決に向かう。具体的には、学年部会での情報共有やケース会議で他の関係機関と連携しながら具体的方針を検討し実行を通して、児童が安心して過ごせる環境整備につなげていく。生活指導部長をリーダーとして、気になる児童の見守りや支援を担任と連携しておこない、気になる児童のフォローアップを日常的におこなう。
---------	-------	--

目標設定区分4 『地域連携と渉外』

A 今年度の成果目標		達成基準（各種調査、アンケート等）
家庭教育（学習）支援の充実と地域コミュニティづくりの推進		学校教育自己診断アンケート等、全国学力学習状況調査 児童・教職員アンケート等、NRT、すくすくウォッチ等
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
【学校教育自己診断】 （保護者アンケート） お子さんは宿題や自主学習にがんばって取り組んでいますか。	肯定的評価 80%	【家庭教育支援の充実】 家庭学習のねらいを教職員間で明確にし、児童はもちろん、保護者にも周知して、自己の未来に向けて計画的に取り組む児童の姿勢を家庭と共に育てていく。
【学校教育自己診断】 （保護者アンケート） 学校の教育活動や様子は、保護者によく知られていますか。	肯定的評価 90%	【開かれた学校づくり】 積極的な情報発信に努め、教育活動のねらいや学校の現状や課題などを共有していく。学校、家庭、地域が思いを等しくして、子どもたちに向き合えるよう心掛け、地域の資源も活用しながら、子どもたちを中心に据えたコミュニティの輪（連携）を強めていく。